

射水



記 明治七年八月
※高岡市清水町二丁目 桑名暉氏 奉納

復刊第1号

射水神社社報
平成16年1月発行

年頭挨拶



宮司 松本正昭

皇紀二六六四年平成十六年の初春を迎え、新年を寿ぎ賀詞を申し上げます。

畏くも天皇皇后両陛下におかせられましては、大御神様を始め八百万の神々様に真心を捧げられ、常に国民の幸と国家の隆昌をお祈りなされ、御公務に精励遊ばされますことは、国民斉しくお慶び申し上げますところであります。

昨今の社会状況は、民主主義の蔓延と学校や家庭における教育の崩壊により、過ぎた個人主義が台頭し、家庭環境も核家族化し、伝統的価値観や共同体意識が失われ、人間としての道徳意識のない事件が続発している常ならぬ状況にあります。

社務の傍ら、境内に亭々として聳える大樹を仰ぎ、老木の幹に新しい枝が伸び境内の主役として荘厳な風情を醸しだしている姿仰ぎみなが

ら、戦後日本は速やかに成長し、空に向かつてただただ新枝を伸ばす事のみに精力を注ぎ、幹に栄養も与えず傷つけることのみの政策の失策が今日の社会状況を生み出したであろうと思うわけであります。

日本はこの様な段階が過ぎ、大樹の幹の根である日本伝統文化を滋養しない限りは、その幹の老化が甚だしくなり、根と葉末の連絡に齟齬が生じ、遠からず根は腐り、枝葉は枯れ、幹もまたその命も途絶えるように、日本の将来は無い訳であります。

人は決して一人では生きていけない、日本の文化を今に継承し育んでこられた先祖と、今に生きる人との繋がり中に今の社会があることを認識し、先人たちの知恵を学び、そこにこめられた伝統文化や秩序を再び喚起しなければ、今の社会状況を打破する事は出来ないのではないのでしょうか。

申年ではありますが、猿真似せず、申の知恵の良さに肖り、神武創業の日本本来の姿に立ち返りますよう祈念申しあげ、年頭の挨拶に代えさせていただきます。

前屋舗直彦宮司を偲ぶ

射水神社奉賛会
会長 渡辺辰男

射水神社宮司屋舗直彦様の思いもよらぬ訃報のお知らせに、ただただ驚くばかりでございます。六十二歳という神職として、氣力経験共に充実した、まさにこれからの逸材であり、我が町高岡市にとりまして大きな損失であり、心よりご冥福を申し上げます。

宮司ご就任より四年と四ヶ月あまり、最近は特に培われたご経験を生かし、毎年五月に行われる、本年度責任役員会におきまして、お身体の不調も感じさせず、これからの射水神社のあるべき姿、又仕事への意欲を語られておりました事が思い起こされます。

殊に思い起こされるのは、前年度我々役員および神社の職員の方々との、懇親も含めた東京「明治神宮・靖国神社参拝と衆議院議員議長公邸訪問」という研修旅行を

実施され、我が国の進むべき道筋を、神職でも在らせられる、綿貫民輔前衆議院議長様を訪ねることにより、学ばせて戴いた事が、最後で最大の思い出でございます。

常に前向きに、郷土また祖国を愛し続けた亡き宮司は、今もあの柔和な表情で我々を見守り続けておられる事でしょう。

残されたものの務めは、射水神社を中核に、神社職員並びに役員一同心を一つに故郷・祖国の発展に努める事であると存じます。



御神恩

初詣茶席を目前にして

茶道 清風の会
会長 辻やす子

平成十五年も、あと一月足らずとなりました。

この一年多くの出来事に遭遇致しました。殊に射水神社屋鋪宮司様のご逝去の報に接し、お世話になった日々、ご指導下さった事を思い起こし、哀悼の念一入でございました。そして先日は、松本新宮司様から神社の司としてご継承されたお報せを頂き、新たな射水神社の一步に心からお慶び申し上げます。

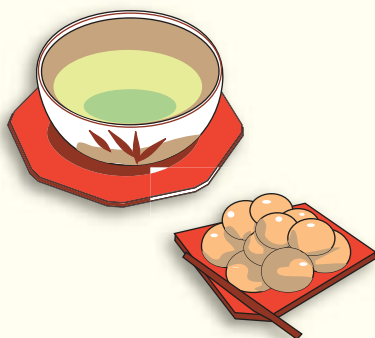
その新たな歩の中で、私ども茶道清風の会は来る平成十六年一月一日から三日迄、射水神社初詣茶席を担当させて頂きます。

ご縁を結ばせて頂く会員一同、神へのご奉仕の思いを新た

にいたしております。

新しき年の初めのお席に、若水を汲んで初詣にご来社されませす皆様方に、心をこめておもてなしをさせて頂くことは、大いなる一步であり、茶道の精神「一期一会」の出会いの心を大切に、未熟な一同ではございますが、つとめさせて頂こうと、皆で手を取りあうこの頃でございます。

来年もまた何卒よろしくお願い申し上げます。



「十四歳の挑戦」

生徒さん御奉仕のこと

去る十月二十七日から三十一日にかけて、『社会に学ぶ十四歳の挑戦』の校外授業に高岡市内の南星中学校二年の小栗明日香さんと、同じく二年の有井瞳さん二人の生徒さんが来社、ご奉仕頂いた。

この授業の趣旨は、行動範囲が広がり、活動が活発になる中学二年生が、学校外で職場体験活動や福祉、ボランティア活動などに参加することにより、規範意識や社会性を高め、将来の自分の生き方を考えるなど、成長期の課題を乗り越えるたくましい力を身につけることを目的とするものとの事です。

当神社では、この趣旨に賛同し、本職の巫女二人を指導ボランティアとし、毎日のカリキュラムを決め、ご奉仕頂くことにした。

毎日、白衣緋袴の巫女姿に更衣し、社殿清掃、朝拝、そして日替わりで神職が講話を一時間程度行つた。また七五三の千歳飴や、授与品の準備のお手伝いもお願いした。

一日目の講話は、「神社史」と題し

て、射水神社の歴史から日本神話のこと、また、神社の社格、神社神道の成り立ちから、毎朝奉唱する「大祓の詞」意味を簡単に解説しました。

二日目は社頭領布の授与品について。三日目は恒例祭典や特殊な神事等おまつりについて。四日目は神前結婚式及び披露宴についての講話を行つた。そして最終日の三十一日は社殿の大掃除のご奉仕をお願いした。

この五日間をつうじて、お二人には今後の社会生活をおくる上で僅かでも役にたち、そして心の底に残るものが有ることを祈るものであります。



写真左／有井瞳さん 同右／小栗明日香さん
拝殿前にて

杜の景色(下半年)

6月30日 夏越大祓
7月上旬 職場安全祈願祭
7月上旬 奉納書道展
7月10日 悪王子社秋祭
8月27日 諏訪社例祭
9月16日 秋季大祭
9月22日 日吉社秋祭
11月1日〜30日 七五三まつり
11月3日 明治祭
11月23日 新嘗祭
12月23日 天長祭
12月31日 師走大祓
及除夜祭

夏越大祓

恒例の夏越大祓式が去る六月三十日午後六時より執り行われました。大祓は毎日の生活の中で知らず知らずのうちに身についた、罪穢れを六月と十二月の晦日に神に祈って祓い清めて人間本来の誠に立ち帰って、清々しく明るく元気に生きて行こうとする大切なお祭であります。

当日は、境内に「茅の輪」を設置し、これ

を参列の皆様と一緒に「水無月の夏越の祓えする人は千歳の命延ぶといふなり」の唱え言葉を合唱しつつ、左右、左とくぐり抜けてから拝殿に参入した。

拝殿内では、大祓詞を奏上した後、崇敬者の皆様よりお預かりして居りました「形代」をお祓いし、また人形清祓として、予めお預かりいたしておりました、雛人形や五月人形、縫いぐるみ等の人形をお祓い致しました。



奉納書道展

今年で二十四回目を迎える奉納書道展が行われ、七月二十五日から二十七日まで参集殿を会場に展示された。

本書道展は、漢字かなの修練を通して、書道の技能を身につけ、併せて精神の向上を目指す目的で毎年夏に行っている恒例行事であります。

出品課題は各学年毎に決められており、「とりい」「玉ぐし」「浦安の舞」など、神社に関わりの深い言葉が選ばれています。本年の出品総数は、県内呉西地区を中心に二一六六点で、幼稚園から、

小、中、高校、社会人の方々の応募があり、全ての作品を神社参集殿内に展示し、厳正審査の結果、特別賞一二点、特選三二点、金賞八三〇点を選び、七月二十七日午後二時より御神前にて正式参拝の後、参集殿にて受賞者全員に症状並びに記念品を授与しました。



秋季大祭

秋晴れに恵まれた九月十六日、当社秋季大祭が斎行された。

祭典は、

斎主祭員参進着座の後、海川山野の種々の神饌



が、御神前に次々と供えられ、斎主の祝詞奏上、献幣使の祭詞奏上、そして巫女が正装を身に着けての神楽「浦安の舞」の奉納。また、射水神社宝生会の皆さんの謡曲も奉納され、祭に彩りを

添えた。そして、ご参列の方々が次々に御神前に進み、玉串拝礼をされ、神恩感謝の誠を捧げられた。

七五三詣

お子様のますますの御成長をご祈願致します。七五三詣が今年も十一月一日から三十日までの一ヶ月間にわたり執り行われました。

今年は、本来の七五三日であります十五日が土曜日に当たりました。為翌十六日と併せてこの両日にお参りが集中したようでした。

拝殿では、御両親と一緒に、お子様が小さい手を合わせてお参りし、お参りの後には、大きな千歳飴の袋を引きずるようにもってカメラに向かってポーズを取る可愛い姿がそこかしこで見受けられました。

又、お子様の益々のご成長を絵馬に託して、御両親や、お子様本人が一生懸命書いて奉納して頂くことにより、お参りの皆

さんにも、お

祭に参加し

て頂き、なお

一層射水の大神様のご加護をお受け下さるようお願いしていま



祭事のご案内

平成十六年厄年・身祝



節分 豆打ち奉仕者募集

平成十六年二月三日(火)
午後三時より射水神社にお
きまして、節分祭を肅行致し
ます。つきましては、厄年!選
暦のご祈禱を当社にてお受け
されました方より男女各五名
豆打ちの奉仕者を募集いたし
ます。ご希望されます方は、一
月二十日(火)まで射水神社社
務所へご連絡下さい。

問い合わせ
(〇七六六)二二一三一〇四

女性 19 歳

前厄 昭和 62 年生
本厄 昭和 61 年生
後厄 昭和 60 年生

女性 33 歳

前厄 昭和 48 年生
本厄 昭和 47 年生
後厄 昭和 46 年生

男性 25 歳

前厄 昭和 56 年生
本厄 昭和 55 年生
後厄 昭和 54 年生

男性 42 歳

前厄 昭和 39 年生
本厄 昭和 38 年生
後厄 昭和 37 年生

社務日誌

(六月) 一日 朔日祭 あけぼの敬神講参拝 大和中元必勝祈願 全国城下町連絡協議会参拝 大和月次祭 福井県吾名地区氏子総代会参拝 あけぼの敬神講参拝 戸出遺族会参拝 月次祭 愛知県龍城神社参拝 鎮火祭 消防関係者参拝 ブライダル相談会 ブチブライダルフェア開催 夏越大祓約百三十名参列	二日 朔日祭 あけぼの敬神講参拝 富山県労働基準協会 労働安全祈願 大和月次祭 摂社 悪王子社秋祭 向陵高等学校野球部必勝祈願 石川県本折日吉神社山王会参拝 モラロジー研究所参拝祈願 あけぼの敬神講参拝 月次祭 中越ハルプ二塚工場安全祈願 奉納書道展 (二十五日~二十七日)	三日 朔日祭 あけぼの敬神講参拝 富山銀行職員組合祈願 三十八神社 伴谷氏子総代会参拝 参集殿にて浦安舞講習会開会 (四日~七日)	四日 朔日祭 あけぼの敬神講参拝 富山銀行職員組合祈願 三十八神社 伴谷氏子総代会参拝 参集殿にて浦安舞講習会開会 (四日~七日)	五日 朔日祭 あけぼの敬神講参拝 富山銀行職員組合祈願 三十八神社 伴谷氏子総代会参拝 参集殿にて浦安舞講習会開会 (四日~七日)	六日 朔日祭 あけぼの敬神講参拝 富山銀行職員組合祈願 三十八神社 伴谷氏子総代会参拝 参集殿にて浦安舞講習会開会 (四日~七日)	七日 大和月次会 責任役員会開催 三支部合同祭式講習会於 参集殿 屋鋪宮司午後八時三十五分帰齋 屋鋪直彦大人命通夜祭 本葬・火葬・婦家祭執行 明治神宮中島瀬川等関係者多数参拜 土俵祭 月次祭 ブライダル相談会及び試食会 末社 諏訪社例祭 岐阜県神社庁土岐支部参拝 富山県神社庁研究会 於 社務所 富山県神社庁総会 於 参集殿 (九月) 一日 朔日祭 長野県諏訪大社大総代正式参拝 責任役員会開催 愛知県真清田神社 一宮巡拝会正式参拝 明治神宮崇敬会 中島事務局長正式参拝 ブライダルフェア開催 秋季大祭 秋季大祭後日祭 安城市水道組合職場安全祈願 摂社 日吉社例祭 月次祭 屋鋪直彦大人命五十日祭 摂社 院内社秋祭 (十月) 一日 朔日祭 あけぼの敬神講参拝 大門神社巫女浦安の舞研修の為来社 神社庁教学部会合(会議室) 大和月次祭 高岡市護国神社大祭前日祭 高岡市護国神社秋季大祭	八日 高岡市護国神社大祭後日祭 神嘗祭当日祭 神社庁高岡・新湊支部 大麻・厩頒布始奉告祭 二十七日 高岡市南星中学校生徒2名 「十四歳の挑戦」実施同二十一日まで (十一月) 一日 朔日祭 あけぼの敬神講参拝 明治祭 屋鋪前宮司を偲ぶ会 大和月次祭 あけぼの敬神講参拝 新嘗祭 読売茶会開催 二十六日 神社本庁工藤伊豆総長参拝 二十七日 高岡・新湊支部新穀感謝祭旅行 伊勢 二十八日まで。 宮司・近尾出席 (人事) 昇進 射水神社宮司 松本正昭 平成十五年十月一日 叙勲 旭日中綬章 受章 奉賛会長 渡辺辰男 平成十五年十一月三日 新任 巫女 地子美幸 平成十五年四月一日 事務職 今村香代子 平成十五年七月一日
---	--	--	--	--	--	--	--

越中の食彩

木舟町 大野 隆一
常務 大野 隆一

正月の菓子『福梅』 ふくうめ

富山県では、お正月になるとお茶菓子として紅白の「福梅」を出す習慣がある。富山県の方なら大半がご存知のように、福梅は、梅型の種皮に粒餡を入れ表面にお砂糖をまぶしたお菓子である。この福梅は越中を統治していた加賀前田家と深い関わりを持っている。ご存知のように前田家は、菅原道真公の末裔といわれ、幼剣梅鉢（加賀梅鉢）の家紋を用いている。福梅はこの加賀梅鉢を模したものであるというのが現在流布している最も一般的な説である。加賀梅鉢が家紋と定められたのは五代藩主前田綱紀公の時で、これ以降加賀梅鉢の乱用は禁じられ、年賀の挨拶に伺候する家臣等特別な者にのみ、殿様から加賀梅鉢型の福梅が下賜されるようになった。これが福梅の始まりといわれている。いわば、福梅は特別なときのみ頂戴できる特権的なお菓子だったのである。これらの経過から推測すると一般庶民が福梅を食べられるようになったのは、廃藩置県が行われた明治以降、早くとも江戸時代のごく後期ではないかと思われる。今では、当り前に食べることのできる福梅にはこのような歴史があったのである。尚、福梅は、単に梅に雪がかかった様子を表しているだけで加賀梅鉢とは関係がないという異説もあるので、ご紹介しておく。



ご結婚おめでとうございます。

御神恩をいただき、幸おおからん事を。(六月一日～十一月三十日)

六月 立花 直・由紀 様	小林 貴憲・幸子 様	太田 一志・芳恵 様	森戸 幸治・明子 様
釜谷 雅之・麻記子 様	九月 今井 豊・真霧 様	笹谷 隆文・いずみ 様	山崎 壮志・静 様
芝山 康秀・亜希子 様	山田 康則・美智代 様	大門 稔・奈津子 様	浜本 智生・眞紀子 様
村上 隆志・葉子 様	山住 昌弘・真由美 様	渋谷 和幸・智子 様	坂口 直人・美智子 様
大垣 和則・有紀 様	島 俊夫・圭子 様	小栗 博彦・由香 様	前田 一治・洋代 様
金谷 壽久・裕子 様	三場 勝彦・律子 様	金田 忍・尚美 様	九澤 昌人・知子 様
アーロン・サンドリン・貴絵 様	見崎 幸雄・真弓 様	有澤 崇・真樹子 様	須藤 良平・裕美 様
高山 倫人・篤子 様	奥野 徹・敦貴 様	越口 紀男・美保 様	猶明 慎治・弥生 様
松居 寿・和代 様	堀江 直久・史要子 様	二谷 浩史・菜摘 様	桃井 章・千巳 様
佐野 公治・果林 様	関沢 洋一・さやか 様	西岡 将寿・育代 様	扇谷 宗典・美帆 様
岩脇 仁嗣・千春 様	高橋 勇・悦子 様	村上 昌彦・優佳 様	近江 伸浩・敬子 様
新 英樹・裕美 様	十月 垣内 紀彦・智子 様	加埜 敏章・千里 様	吉岡 慎太郎・ひさ子 様
宮原 昌也・美和子 様	磯部 晃伸・貢三子 様	敷 則和・悦子 様	大坪 辰典・晶代 様
吉田 真人・しのぶ 様	山崎 祥司・由紀子 様	十一月 高田 清和・泰子 様	
七月 小竹 渉・優子 様	吉澤 康友・朋子 様	藤田 元治・こずえ 様	
山下 保・礼子 様	山本 博久・みさと 様	酢谷 浩次・恭子 様	
大場 永雅・佳子 様	室谷 博之・結加 様	金子 誠・陽子 様	
高木 潤・真咲 様	林 伸一・亜貴子 様	山田 勉・恵子 様	

『ふるさと 射水神社』

①越中文化発祥の地「二上山」
射水神社は、太古二上山麓に祀られて以来長い歴史を経て、明治八年、現在の加賀藩主前田利長公築城の高岡城本丸跡に遷座した。

二上山は越中文化の発祥の地であり、そこから開けいく文化の下に広く日常生活が営まれて今日に至っているのである。古代の日本人は、神々が天上に住み、高い山や、高い樹木を憑代（よりしろ）として地上に來臨する考えをもった。人里近くにある、山容のすぐれた二上山は、太古の居住者にとり山そのものが清浄な御神体であり、神靈山として崇敬し、祖先の神靈の鎮まります霊山として仰ぎ奉ったのである。

二上山は高岡市の小矢部川

の北岸に広がり、山頂の高さは二七三メートルである。「二上」は「ふたかみ」と読み、これは峰が二つあるというその形態から名付けられたものである。その二つの峰とは東峰「奥の御前」とよばれる摂社日吉社鎮座の峰（二七三メートル）と西峰「袴が越」と呼ばれ頂上部は削平され、中世守山城と呼ばれた城の本丸として利用されていた。この「袴が越」は城山（二五九メートル）ともよばれ、原形や最初の高さはどの位であったかは不詳である。二上山は高度こそ三〇〇メートルに満たない低山であるが平野部に突出しているためよく目立ち、周囲に肩を並べる山がないため、実際よりも高く見え、富山湾岸の全域と富山平野西半分のほぼ全域から、そして海上では能登半島の先端からも望むことができる。その山容は今もたいへん秀麗であり、神が宿る山と仰がれても不思議ではない山といえる。



編集後記



■前屋鋪宮司の在任中より社報「射水」の復刊は、当社の懸案事項として協議されて来た所でありましたが、この度「前宮司より引き継いだ事項を一つ一つ検討し、実現させて行きたい」との松本宮司の方針に沿い、十月より約二ヵ月半、職員一丸となり発刊に漕ぎついた次第でございます。今後は定期刊行物として、年二回の発刊を目指し、皆様に愛される『射水』を発信してゆきたいと思えます。

■表紙はカラージュされた「射水神社社殿」（松井角平）の図面ですが、今年夏現在立つ本殿は、建築家として初めて文化勲章を受章した「伊東忠太先生」の初期の作品である事が、新聞紙面を通じ報じられ、反響を呼び市内の方より種々の史料が寄贈されました。この父祖の代より受継がれた当社社殿を、次代に資料的価値はもとより「温もりのある」神社の社殿としても、伝えて行きたいと思えます。

発行 射水神社
発行所 〒933-0044
高岡市古城1の1

0766-12213104
0766-12113715

印刷所 キクラ印刷株式会社

参集殿通信

「結い紐」

射水神社では我が国の「心」を見つめ、ご神前にて婚姻のご報告と、これよりのお二人が、幸多からんことを祈念できる式を行っております。また当社では普遍の愛を示し、それを体現していただくため、「結い紐の儀」を祭儀に組み込んでおります。本来目に見えない「運命の赤い糸」を大神様の御前にて参列者共々確かめ、永遠の愛をお誓いいただく、伝説をモチーフとした厳粛なる祭儀であります。



川越水川神社拝授

「奇をてらった」などと思わないで下さい。この祭儀には『赤い糸の物語』を古来より伝えた、先人たちの「心」が息づいているではありませんか！この伝承を伝えたいのはきつとお二人の祖先、そしてこの伝承をお二人が伝えるのは、これから出会うであろうお二人の子孫。お二人の小指にしっかりと結び付けられた赤い結い紐は、二度と出会う事の無い愛の証であるとともに、かけがえの無い物語の小さな語り手でもあります。

『あかい糸の物語』お二人のための時間を意義あるものとするために…

片原町 上野写真館

私が射水神社で式を挙げて三十年も経ちました。仕事を通じて幸せを分けてもらう日々を送っております。しかしその間、世相を顧みますと、両親や知人など我々を慈しみ育ててくれた人々に対する「心」を置き忘れてきた気がします。そのような中、神社で式を挙げられるカップルは、私の疑念が危惧であることを教えてくれます。

「あそこで結婚式もできるの？」なんて私が嫁いだ頃にはとても耳にしなかった言葉を聞きます。そんな時は古城公園（うつくしの杜）というすばらしいロケーションの中で、厳かな神前式のすばらしさに触れていただきたいと思うのです。その機会として最近ではブライダルフェアが年二回おこなわれております。そして写真館にとりましては、このフェアで結婚予定のカップルと事前に顔を合やすことにより、当日より心を込めて、お二人の一番大切な思い出を写真に残すことができるかと感じております。

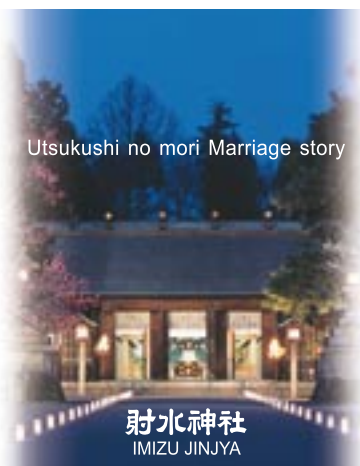
それから月日がたち、かわいい赤ちゃんを授かり、お宮参りや七五三、十三参りをされ、再び訪れたお二人の幸せを、スタジオにて写真に収めることができた時、この仕事を続けて本当に良かったと思うのです。

うつくしの杜 ブライダルフェア

射水神社では、この春以降に挙式予定のお二人をご優待し、本格的な和の神前式から披露宴までをご覧いただける『うつくしの杜ブライダルフェア』を開催いたします。県内唯一の「結い紐の儀」や「トワイライトウェディング」を始め、うつくしの杜ならではのオリジナリティあふれる演出、和の儀式のうつくしさをぜひご体感ください。

◆ブライダルフェア日程（予定）
平成16年 4月4日（日）12:00～19:00

Utsukushi no mori Marriage story



射水神社
IMIZU JINJA

うつくしの杜、結婚式場

射水神社

〒933-0044

高岡市古城1番1号（高岡古城公園内）

お問い合わせ電話番号

0766
22-0808

URL <http://www.imizujinja.or.jp>
Eメール info@imizujinja.or.jp